



# コスモスだより



## 「認定保育園」 決定を機に、 新たな発展を！

こすもす保育園は、昨年4月1日より、市立三田小学校区内にある、大規模マンションに併設された、企業保育園の撤退の後を受けて、認可外の地域保育園として運営してきました。

25年度川崎市は、高まる保育需要や多様化する保育ニーズに対応するため「川崎市認可外保育事業再構築方針」を打ち出し、川崎市認定保育園A型・B型に整備されこの度、こすもす保育園は「川崎認定保育園B型」となりました。

この認定で、運営費の補助により、保護者の負担の軽減や、園の環境整備、職員たちの資質向上を図っていききたいと思います。

NPO法人・コスモスの家は、今年で25周年を迎えます。現在のコスモスの家は、文字通り「子どもから高齢者までの安心・安全のまちづくり」を目指す事業となり、年間一億円を超える事業は、地域の経済活性化にも大きな役割を果たしています。

しかし、政権が自民党に移り、介護保険の改正、保育園待機児童問題、放射能汚染問題など様々な問題が浮上しています。東北大地震から2年を経た今も、多くの人たちが避難生活を強いられています。決して、明るい未来が見通せるとは言えませんがNPO法人コスモスの家は、憲法をよりどころにますますの地域福祉の活動のひろがり、発展を目指して参ります。今後とも皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



理事長 渡辺ひろみ

2013年5月20日 春号 季刊NO 97号  
発行責任者 特定非営利活動法人 秋桜舎  
〒214-0034 川崎市多摩区三田2-1-5-3  
TEL 044-932-2425 FAX 044-932-2441

## 子ども達の笑顔とともに

こすもす保育園は緑豊かな大変環境に恵まれた保育園です。川崎認定保育園に申請を出すにあたってはこの恵まれた環境をさらに整備し、子どもたちやその保護者、地域の方々のニーズに合った保育内容の充実を図っていききたいと考えました。定員25名という規模な保育園ですが、集団生活の楽しさと家庭的で落ち着いた雰囲気を感じられる保育園です。準備をするにあたって、その成果が現れ出したのが3月下旬、「保育園が毎日進化していく」と子どもたちが目を輝かせて登園してくるようになりました。

現在ちゅーりっぷ組(0・1歳)とすみれ組(2・3歳)のクラスに分かれて年齢に合った保育をしています。またこすもす保育園の特徴として、地域のお年寄りとの野菜作りを通しての世代間交流や気軽に子育ての相談ができ、就労していない家庭の子どもたち、保護者にも保育園を利用して頂けるように一時保育も実施しています。またこれまで女性は出産と育児を機に家庭に入ってしまうことが多かったと思いますが、こすもす保育園では働



く職員も子育てと仕事を両立できるようにワークショップやリングとワークライフバランスを基本とした雇用形態を取り入れ柔軟に対応しています。これにより子育てだけではなく、持っているキャリアアップして活かしながら子育てしながらキャリアアップしていけるようにと考えています。

秋桜舎コスモスの家の活動は今までも地域のニーズに素早く対応し、その功績は三田地域にとどまらず、国や川崎市の信頼を得るまでになりました。こすもす保育園が川崎市の認定を受けられた背景にはこの25年間のNPO法人の活動があったからこそだと思います。日本におけるNPO法人のイメージはまだまだ良いとは言えませんがグローバルな視点では地域における最も尊ばれる存在であると思います。今後はさらに法人の理念を基に子どもからお年寄りまでが住み慣れた場所で安心・安全なまちづくりを推進していくとともに、川崎市の認定を受けたという責任を感じながら地域に求められる保育園を職員と共に目指していきます。

(園長・中澤あずみ)



## 全国団地サミットに参加しました!!

2013年2月10日(日)、関西学院大学において、全国集合住宅団地支え合いサミット(以下、団地サミット)というものが開催されました。この団地サミットは、1950年代以降、全国各地に数多く建設された集合住宅団地が設備の老朽化や高齢化の進展、人口減少にともなう空室の増加などにより、さまざまな生活課題の表出やコミュニティの維持の難しさが見えてきたことを受け、それらを解決するための先駆的な取り組み事例を紹介、研究する会です。



### 理事長、NPOの社会的価値を訴える!

コスモスの家の渡辺理事長は「動くのは私たち住民主体の取り組み」の分科会に登壇し、コスモスの家がいかに長い間住民と繋がり、まちを形作ってきたのかについて、地域調査やこすもす保育園など、最近の目立った取り組みと合わせて報告しました。報告の結びに渡辺理事長は、今後の地域福祉におけるNPOの方向性について、①NPOが若者たちの夢を実現する職場であること、そのために、②理念と事業運営の両立、市場原理ではない社会的価値の追求をすること、③事業収入だけではない地域密着型の「認定NPO法人」を目指すことが重要と述べました。そして、「これからも地域のニーズに基づいた事業展開を図っていく」と締めくくりました。

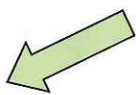
これまで、介護やまちづくりをテーマとする講師やシンポジストの依頼はありましたが、今回は、「集合住宅」がキーワードの一つとなっており、「住宅と福祉」が大きなテーマになっています。コスモスの家が「住宅」や「建築」といったこれまでとは、違う分野に視点を持っていることがわかる場面でした。



最後の研究会において、コスモスの家のケアマネージャーに話題がのびりました。ある方が、「コスモスの家ケアマネージャー水野さんに「他の事業所でケアマネージャーをしたいと思うか?」という質問に対して、水野ケアマネージャーが「他の事業所ではやれないと思う。利用者の生活に合わせたケアマネシメントが出来るコスモスの家だから私はやっていける。」と答えた話が紹介され、会場の共感を呼んでいました。住宅や介護保険、ボランティア活動、そして地域。制度ではなく、住民の生活に沿った支援を今後も求められると思った一幕でした。

来年の会場は川崎です。全国の様々な事例から学んで三田地域で活かしていければと思います。今回の団地サミットに関わる全国の先進事例を収録した『集合住宅団地の支え合いのすすめ』が全国ライフサポートセンターより発行されました。

(事務局長・本田和隆記)



## 住みよいまちづくり事業の動き

平成24年度は、これまで調べてきた地域の課題に対して、やれることはどんどんやってみようという「三田まちづくり委員会」「すいとんの会」「生田中学校吹奏楽部演奏会」「初がま&だんご汁の会」「認知症公開講座」など、具体的に実施した年です。

「三田まちづくり委員会」では、地域の課題解決に向けて様々な主体が集まって意見交換しました。「すいとんの会」「初がま&だんご汁の会」では、地域調査でお盆や年末年始に一人で過す方が122名/1332名いることがわかったため、こういった方々のために「何か出来ないか」と始められた取り組みです。当日は、地域の高齢者、中学校生徒・教員、大学生・教員、コスモスの家職員などが集まって楽しい時間を過ごしました。

また、「認知症公開講座」は、地域の認知症高齢者が行方不明となったことがきっかけとなり、地域住民に対して認知症の理解とその対応について考える場を持つというところで企画し、合計20名の参加がありました。具体的な活動を行うことで様々なネットワークが生まれ、互いの協力関係を築くことができました。



# まちづくりー今後の取り組みについて

しかし、ネットワークを使って取り組みを充実させることは出来ましたが、地域住民の孤立化のみに焦点を当てたネットワーク作りが出来ているとは言えません。東日本大震災を契機にこの三田地域でも「防災」をテーマとする論議が行われていましたが、未だ具体的な活動に至っていないので、今後は「地域の防災ネットワーク作り」に取り組んでいきたいと考えています。最後に「防災」を切り口に孤立化問題にも取り組んでいきたいと思っています。

(事務局長・本田和隆記)



## 平成二十五年度特定非営利活動法人

### 秋桜舎通常総会のお知らせ

日にち 2013年6月16日(日)  
時間 10時〜12時  
ところ コスモスの家

#### デイビスセンターケア室

※午後は、歓送迎会と資格取得お祝い会をします。

## 法人全体研修会

2012年度は、コスモスの家にとって大きな転換点であるとともに、厳しい一年でありました。そのような中、これまでのコスモスの家の歴史を振り返り、今後の事業発展に生かしていこうと、2回にわたる「法人全体研修会」を開催しました。

一回目は、12月1日(土) デイサービスケア室において実施され、29名の参加がありました。これからの少子高齢化、人口減少社会に向けたコスモスの家の事業・活動の意義について、法人の歴史と最近の取り組みを事務局長が説明しました。

二回目は、1月13日(日)生田中学校特別創作活動センターにおいて実施され、28名の参加がありました。コスモスの家は、狭い地域の中で様々な事業をしています。全職員が事業の全てを把握しているとは言えません。そこで、どのような職員がどのような思いを持って働いているのかについて、各事業の代表者に登壇してもらい、率直に意見交換する場を持ちました。特に、働く職員の生活や人生にどのような「意味」を持っているのか確認することが出来ました。



## 認定

## NPO

## 法人を目指して (経過報告)

前回のコスモスだよりでお知らせした認定NPO法人申請への取組み状況をご報告いたします。

去る2月8日に、NPO法人事務の窓口である川崎市市民・こども局市民協働推進課に行き、当法人の現況説明と同時に認定申請について相談をしたところ、認定への最短コースとしてはまず川崎市条例に基づく「条例指定」を受け、その後「認定団体」となるのが最も容易かつ確実な方法であるとの示唆をいただきました。

川崎市条例指定団体となるためには、①直近の2事業年度に3千円以上の寄付をした川崎市民が年平均50名以上、という条件があります。具体的には平成25年度申請をする場合、3千円以上の寄付をした市民が23年度と24年度の合計で100人以上いればよい、ということになります。

この条件を当法人に当てはめてみますと、23年度は8人でしたので24年度は92人以上が必要となります。24年度の寄附状況としては、幅広い皆様のご支援の結果119人達することができました。

申請に際しての最大の難点であった寄附条件をクリア致しましたので、事務局としては7月中旬に川崎市へ条例指定の申請を提出したいと考えております。書類審査や現地調査を通すれば、最短で12月の市議会に上程され、年内にも指定団体を実現する運びとなります。

これまで、法人関係者のもとより地域住民の皆様からいただいたご支援に心から感謝申し上げると共に、25年度も引き続き寄附金につきましては力強いご支援をお願いいたします。



事務局 大島清年記

# 宮前コスモスの家

3月28日



今日の食事は、最後の集いとあって、ヘルスメイトの小田島さんと長倉さんのおふたりがみえて下さり、調理に腕をふるって下さいました。柔らかハンバーグ、梅ドレッシングのサラダ等々、手作りならではの心のこもったお料理に、「これが最後の会食会か」と皆さん惜しまれていました。

食後は、間野さんのリードで賑やかに歌をうたい、また「機会があれば一緒にしましょう」と話しながらお別れました。

皆さんに愛されての会食会を終わることを残念に思いながら・・・。  
(杉村敦子記)

※平成25年度4月からは、引き続き、栗山先生の「絵の会」は実施していきます。



# 有馬コスモスの家



今年の有馬コスモスの目標は下半身強化!!ということから春からウォーキングの時間を設けました！

記念すべき第1回目は往復3時間のコースを空模様が怪しい中14名の方が参加してくださいました。

第2回目はお花見を兼ねたウォーキングということで港北緑道、吾妻山、センター南を通り目的地都筑中央公園を目指しました。今回のコースの中には長い階段が2か所組み込まれていましたが皆さん「はぁーはぁー」言いながらも頑張ったのほり終え、参加者16名達成感を感じながら美味しい手作り弁当を青空の下でいただきました。

井口施設長が地域活動(福祉ネットお茶の間会)へ参加することにより70代の方の利用が増えてきましたが60代から90代の皆さんが楽しんで参加できるよう工夫をしながらこれからもウォーキングの時間を充実させていきたいと思えます。

(山口洋美記)



# こすもす保育園

川崎認定保育園となったこすもす保育園では4月5日に「新入園・進級お祝い会」を行いました。一人ひとりの名前の紹介や保育士が靴下で作った個性豊かな手作りのへびダンスを披露すると子どもから歓声があがり大変盛り上がりました。また毎週月・水曜日はレイティアントシティの自治会の方々と世代間交流を行って、野菜の苗植えや収穫等の様々な体験をさせて頂いております。定期的な活動なので子どもたちも野菜の成長が気になります。野菜に対する苦手意識も変化していく兆しを感じています。これからも職員と保護者と一緒に子どもたちの笑顔でいっぱい、地域に必要とされる保育園でありたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

(こすもす保育園職員一同)

新入園・進級お祝い会



自治会の方々や野菜の苗植えと収穫をしました。

